

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	印南町立 切目小学校	坂口 貴保
学校所在地		
(〒 649 - 1528 ) 和歌山県 日高郡印南町西ノ地536 Tel 0738 ( 43 ) 0023 fax 0738 ( 43 ) 0615		
担当者名		役職名・担当教科
吉見 昌也		教 頭・
<p><b>〔学校の概要〕</b>                      印南町は和歌山県のほぼ中央部に位置し、海・山・川と自然に恵まれた風光明媚な町で、人口は7,200人余り、「豆、トマト、花き」等の農業を主な産業としている。                      「ここ高台の清き地にわが学舎はそそり立つ」と校歌の一節に歌われるとおり、本校は洋々とした紺碧の太平洋を南に見おろした高台に建ち、校区には、熊野九十九王子の中でも特に格式が高いと言われている五体王子の一つ、切目王子がある。                      近年、児童数が減少し、現在の全校児童数は66名となっているが、恵まれた自然と文化遺産の中で、地域の人々に見守られ、明るく元気な子どもたちが多い。長年、教科指導の中で子どもたち一人ひとりの学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着と楽しく分かる授業の工夫について研究をすすめてきている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年5・6年生 25名	担任3名・支援員2名	切目小学校
実践研究テーマ		
人を味わう・自然を味わう・文化を味わう		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習	日本文化を発信しよう	
<p><b>〔キーワード〕</b> 地域の歴史・切目王子・世界遺産・熊野古道</p>		
<p><b>〔単元目標〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に対して、計画性を持ち、色々な方法で調べることができるようにする。</li> <li>・調べたことや自分の思いを効果的な方法で他者に理解されるように伝えることができる力を育てる。</li> <li>・地域の人々とのふれあいの中で、多くの人々の生き方にふれるとともに、社会性を育てる。</li> </ul>		
<p><b>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</b>                      全体 6 時間 （「 「切目」という名前の由来 ～熊野古道とのかかわり～ 」 ）</p>		
<p><b>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</b>                      これまでの切目小学校の歴史を知り、受け継がれてきた伝統や地域とのつながりについて調べることを通して、ふるさとや母校を大切にしようとする態度を育てることをねらいに取組を行った。                      子ども達は実際に切目小学校に通っていた地域の人や保護者にインタビューを行い、当時の学校の様子や伝統について知り、ポスターにまとめた。また、学校の近くにある「切目王子」について知るために地域人材を活用し、歴史や言い伝えなどについて見聞を深めた。さらに、熊野古道の由来ともなる熊野神社周辺の歴史を学び、実際に訪れて見ることで見聞を深めた。</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	○地域（印南町）の歴史について知り、それを調べていき、みんなに知らせるためにテーマを決める。	○調べることをグループごとに決め、具体的に調べ学習を行うための準備をさせる。	・自らの課題を設定し、めあてをもって意欲的に取り組むことができる。
2	○切目王子（熊野古道の一端）に詳しい地域の方にお話を聞き、地域の歴史を学ぶ。	○切目地域の歴史を感じさせるために切目王子について理解深めさせるとともに、地域を愛する心情を育て、疑問を追究したいという意欲を持たせる。	・地域の歴史について興味関心をもち、疑問や追究したいという意欲を持つことができる。
3	○切目王子について学んだことをグループごとに整理して、模造紙にまとめる。	○調べたことを他のグループ、クラスや学校全体に知らせるため整理してまとめさせる。	・調べた情報を収集して活用することができる。
4	○切目王子の歴史的特徴を説明できるようにする。	○グループの中で役割分担をさせ、発表準備をさせる。	・効果的な方法を考え、他者に理解されるように工夫することができる。
5	○まとめたことを発表する。	○グループごとに発表させ、お互いの違いを見せ、新たな視点へと導く。 ○次回からの熊野古道散策への興味関心を高めさせる。	・他者の発表をよく聞き、他者と自分の考えを比較し、共通点や相違点を理解できる。
6	○（熊野古道の歴史に詳しい方のお話を聞き、熊野古道に関する歴史を学ぶ。	○和歌山県の歴史を感じさせるために熊野古道についての理解深めさせ、ふるさとを愛する心情を育てるとともに、疑問を追究したいという意欲を持たせる。	・熊野古道の歴史について興味関心をもち、疑問や追究したいという意欲を持つことができる。
7	○熊野古道について学んだことをグループごとに整理して、模造紙にまとめる。 ○熊野古道の歴史的特徴を説明できるようにする。	○調べたことを他のグループ、クラスや学校全体に知らせるため整理してまとめさせる。 ○グループの中で役割分担をさせ、発表準備をさせる。	・調べた情報を収集して活用することができる。
8	○まとめたことを発表する。 ○今までのふりかえりをする。	○グループごとに発表させ、ふるさとへの愛着を高め、ふるさとを大切にしている心情を育てる。	・効果的な方法を考え、他者に理解されるように工夫して発表することができる。
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>本单元を設定することで、学力の向上を図っていきながら、児童がふるさとのよさを実感することができ、地域の歴史の中にある疑問を発見・追究していく探究的・協同的な学習を通して、ふるさとの自然や文化が貴重なもので、自分達のくらしがいかに豊かであるかを認識させることにつなげることができた。</p> <p>また、ふるさとの自然・文化に感謝しながら自分達のくらしを高めてきた人々の姿に気付かせ、ふるさとを大切に、進んで課題について考え、解決する力を育てることができた。</p> <p>学習や活動にもまじめに取り組んでいたが、課題としては、指示されたことをすることはできるが、自ら進んで課題を見つけ、課題解決に向けて取り組む力がまだまだ十分に育っていないので今後の目標としていきたい。</p>			

〔世界遺産学習の効果〕

生まれ育ったふるさと「切目」のすばらしさを知り、ふるさとで生きている自分を愛することができる、自尊感情をもった力を養うことにつなげることができた。地域の人や文化等に出会っていく中で、ふるさととしての「切目」だけではなく、熊野古道にも視野を広げた探究的な学習を行っていくことで、地域で生きる人々の思いや生き方・文化のすばらしさを実感し、ふるさとを大切にできる心情を育てることができるようになるものと考えられる。

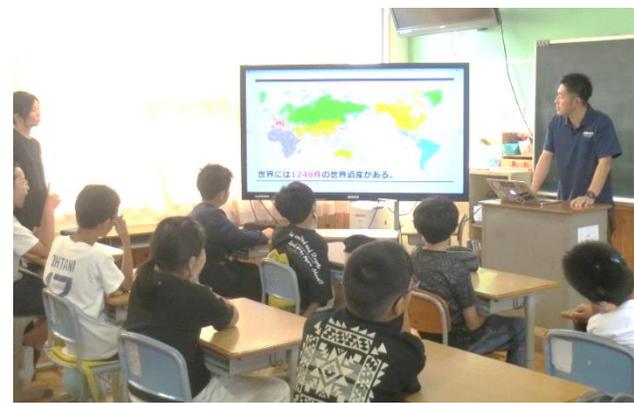
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

ふるさとのことを理解し、ふるさとのよさや素晴らしさを自らの体験に根差して分かりやすく説明し、「語り、つなぐ」人の存在は、「ふるさと教育」において重要である。教員が授業の中で教科書や教材に掲載されていることを情報として伝えるだけでは、子どもたちによさや素晴らしさは伝わりにくい。そのためにも、この「次世代育成事業」での取組は非常にありがたいものであるので、今後も引き続き続けていってもらいたい。これからも、このまま“語り、つなぐ”人との橋渡しをお願いします。

様式 2

令和7年度 「次世代育成事業」における学習記録

〔概要報告書 学習記録・活動写真〕



熊野古道を散策した後、感想とともに、その時のガイドさんから見聞きしたことを全員で分担したから模造紙にまとめました。自分達で見たことでわかりやすいガイドアドバイスを付けることができました。